和'S YAMATO（わずやまと） 初春号 2018

須藤和之 画
雪景色と福寿草

—特集「おんな城主直虎」—
◎井伊家再興を願いつつ直虎は生涯を閉じる
◎井伊直政は箕輪城主となり、井伊家を再興
◎彦根城と周辺の見どころスポット
◎箕輪城 見どころガイド
◎特集「西郷どん」
◎—お客様紹介— 道の駅木更津うまくたの里 様
◎上野三碑が「世界の記憶」登録

祝 ユネスコ「世界の記憶」登録

上野三碑 日本最古の石碑群

現在の群馬県高崎市（古代上野国（こうずけのくに））に存在する三つの石碑・上野三碑の山上碑（やまのうえひ）（681年）、多胡碑（たごひ）（711年頃）、金井沢碑（かないざわひ）（726年）が、ユネスコ「世界の記憶」（世界記憶遺産）に登録されました。日本に18例しか現存しない古代（7～11世紀）の石碑のなかで最古の石碑群です。いずれも国の「特別史跡」に指定されています。

三碑に記されている文面は、上野国に住み着いた朝鮮半島からの渡来人が移入したものです。文字は、当時の都（飛鳥、奈良）から遠く離れた地元の人々が刻みました。東アジアでの密接な文化交流を示す重要な歴史資料です。中国から伝来した漢字文化やインド発祥の仏教が、ユーラシア大陸から海で隔たれた日本に到達し、さらに都から遠く離れた東部の上野国に多数の渡来人の移動とともに伝わり、地元の人々との交流があったことを示す貴重な歴史文化遺産です。

三碑は半日位かけて、ウォーキングをしながらめぐることができます。

山上碑
長利という名の僧が母親の供養のために建てたもので、国内でもっとも古い石碑。

群馬県高崎市山名町神谷2104

多胡碑
古代上野国に新たに多胡郡という名前の郡をつくったことを記念して建てられた石碑。

群馬県高崎市吉井町池1095

金井沢碑
三家（みやけ）氏という一族が先祖供養と子孫繁栄を願って建てた石碑。

群馬県高崎市山名町金井沢2334

和'S YAMATO（わずやまと） 初春号（第35号） 2018

『和's YAMATO（わずやまと）』の由来
ヤマトの漢字の「和」、Water & Air の頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。
ヤマトが発信するメッセージです。

和's YAMATO 2018 初春号／2017年12月発行
発行：株式会社ヤマト（広報室） 群馬県前橋市古市町118
TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896
支店／東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北　営業所／軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀
附属施設／大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター
ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

特集 2017年 NHK大河ドラマ

おんな城主 直虎

2017年のNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」は、徳川四天王の一人として徳川家康を支えた井伊直政の養母といわれる井伊直虎が主人公である。戦国時代、井伊家の存続を図るためにおんな城主になった直虎の姿をドラマティックに描いている。

井伊家再興を願いつつ直虎は生涯を閉じる

天正十年（一五八二）三月、武田勝頼は織田・徳川連合軍の前に敗れ、武田家は滅亡、家康は信長から駿河国を与えられ、遠江、三河と合わせて三国の大名となる。同年五月、家康は安土城にいる信長を訪ね、その際に万千代（直政）も随行する。信長は茶会などを開き、家康一行を接待するが、翌月の六月一日、事態は急変する。信長の家臣・明智光秀は本能寺に滞在していた信長を急襲し、信長は天下統一を目前に、本能寺の変で落命してしまう。

本能寺の変で信長が襲われた時、家康主従は堺に滞在していた。光秀は京をおさせえており、家康の命を狙ってくるのは間違いない。万千代らわずかな供しか連れていないことは光秀に知られており、光秀の追手から逃れ、三河にたどり着くのは至難の業であった。家康は自害することも考えたというが、京を通らずに伊賀の山を越えて三河へと向かう。山中では遭難の危険がありながらも、伊勢に出ることができ、船で岡崎に脱出した（神君伊賀越え）。万千代は、主君を守り抜いた功労として家康から孔雀の羽の陣羽織を贈られた。

岡崎に帰還した家康は、軍勢を整えて謀反人の明智討ちに出陣したが、行軍の途中で既に秀吉が討ち取ったことを知ると、そのまま甲斐に兵を進めた。旧武田の領地は信長が領有していたが、それをいち早く手中に収めるためだった。しかし、北条、上杉氏も同様に旧武田領に食指を伸ばし、八月には北条方と武力衝突する。これは「天正壬午の乱」と呼ばれる武田領の獲得合戦で、終結には長期化すると思われたが、十月下旬、北条方は和睦を申し入れてきた。和睦の調印には、二十二歳の小姓である万千代が徳川家側近の木俣守勝とともに正使に選ばれ、大任を果たした。その功績により、万千代は二万石から四万石に加増され、晴れて元服して直政を名乗ることとなった。

しかし、直虎はその晴れ姿を見ることはできなかった。天正十年八月二十六日、万千代に井伊家の再興を託し、その活躍を見守りながら、龍潭寺の松岳院で息を引き取ったのである。年齢は五十歳前後と推定されている。家名存続に専心した稀有な女性の生涯は、ひっそりと幕を閉じたのである。

井伊直政公の木像（龍潭寺蔵）

直政が伊賀越えの際に奮闘した褒美として家康から拝領したと伝わる孔雀の尾羽根で織られた陣羽織（複製）。

直虎・直政関連略年表

室町時代	天文13年（1544）	井伊家当主・直宗の弟、直満と直義が、家老小野和泉守道高のざん言により、駿府で今川義元に誅殺される。直満の子・亀之丞（9歳）も命を狙われ、信州に身を隠す。
	天文18年（1549）	松平竹千代（徳川家康）、駿府へ人質として入る。
	弘治元年（1555）	信州より亀之丞（20歳）帰国。井伊直盛の養子となり井伊直親と名乗る。
	永禄3年（1560）	桶狭間の戦い。井伊直盛、今川義元に従い出陣。桶狭間にて織田信長と戦い義元と共に討死。直親（25歳）が井伊家当主を継ぐ。
	永禄4年（1561）	虎松（井伊直政）誕生。
	永禄5年（1562）	井伊直親（27歳）、家老小野政次のざん言により今川氏真の呼び出しを受け、駿府に申し開きに行く道中、今川家臣に攻められ討死。
	永禄8年（1565）	井伊直盛の娘・次郎法師、「直虎」と名乗り地頭職につき、虎松（4歳）の後見人となる。
	永禄11年（1568）	今川氏真が井伊領に出した徳政令を実行する。これにより直虎の地頭職は廃止され、家老小野但馬守が井伊領を支配。直後に徳川家康が遠江に侵入し、井伊谷城を接収する。虎松は三河鳳来寺に逃れる。
	永禄12年（1569）	今川氏滅亡。小野但馬守は井伊谷から逃亡するが、捕らえられて処刑される。
	元亀3年（1572）	三方ケ原の戦いで徳川家康が武田信玄に大敗する。
	元亀4年（1573）	足利幕府崩壊。井伊谷は武田軍により焼き払われる。武田信玄病死。
戦国時代	天正3年（1575）	虎松（15歳）、徳川家康に士官を認められ、万千代と名を改める。長篠の戦い。
	天正10年（1582）	本能寺の変で、織田信長、明智光秀に討たれる。直虎逝去。万千代、元服し井伊直政を名乗る。
	天正12年（1584）	小牧・長久手の戦い。直政、武功を上げ六万石に加増。諸大名から「井伊の赤鬼」と恐れられる。
	天正18年（1590）	小田原の陣。**直政、上野国（こうずけのくに）12万石を与えられ、箕輪（みのわ）城の城主となる。**
	慶長5年（1600）	関ヶ原の戦い
	慶長7年（1602）	直政、関ヶ原の戦いの傷がもとで死没。

松岳院跡地（龍潭寺境内）

直虎は松岳院（祐椿尼・直虎の実母）とともにこの庵で晩年を過ごしたという。

御霊屋

井伊家御霊屋には歴代当主のお位牌が安置されている。

JR東京駅にはポスターが設置され、直虎と直政をPRしている

井伊家御霊屋にある井伊直虎と母のお位牌（龍潭寺内）

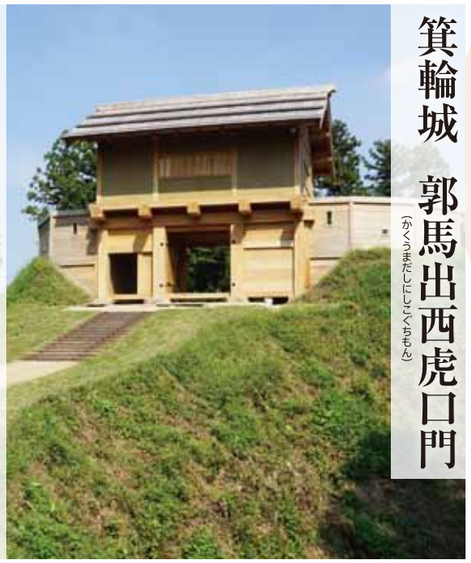
直虎の花押（蜂前神社（浜松市）所蔵）

直政は箕輪城主となり、直虎悲願の井伊家再興を実現

天正十八年（一五九〇）、井伊直政は箕輪城に十二万石で封じられた。これは徳川家臣団で最高の石高であり、家臣の中で唯一昇殿を許される官位が授けられる。直政はその威信を示すため、箕輪城の大規模な造り替えに着手した。平成二十八年（二〇一六）に復元された郭馬出西虎口（かくうまだしにしこぐち）門は、戦国時代の関東地方の城郭で規模が確認されている中で最大規模という。

直虎の井伊家再興という遺志を継ぎ、見事に井伊家を復活させた直政。慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の戦いでも大きな功績を残し、井伊家の地位を不動のものにするのであった。

箕輪城　郭馬出西虎口門（かくうまだしにしこぐちもん）



2階建ての櫓門（やぐらもん）で、幅5・73メートル、奥行き3・48メートル、高さ6・48メートル。城中心部で発掘調査された7カ所のうち最も大きな城門で、城最終時期の井伊直政時代（一五九〇～一五九八年）に使われたとされる。大扉が開いているので、見学者は門を通り抜けることができる。平成二十八年十一月に復元工事が完了した。

箕輪城の堀

本丸の周囲に幅30～40m、深さ10mの空堀がある。城の中央部には南北を分断する大堀切があり、同時代の城としては全国的な規模を持つ堀が城内各所に残っており、見どころの一つとなっている。

箕輪城跡の碑

箕輪城から高崎城へ

慶長三年（一五九八）、直政は徳川家康に命じられ箕輪城を廃城し高崎に築城した。この地には和田氏の居城・和田城があり、直政は和田城を改築、高崎城と命名した。江戸時代は譜代大名の酒井氏、松平氏などが城主を務め、幕府の要職に就く藩主が多かったという。箕輪からの遷城に際しては、武家とともに寺社、職人、商人らも高崎に移り、新たに城下町を形成した。鞘町、連雀町、紺屋町など、箕輪から高崎に引き継がれた町名は現在でも使われている。

高崎城址

所在地：高崎市高松町

乾櫓（いぬいやぐら）は安藤氏が城主の十七世紀末の建築と推定され、昭和五十四年に現在地に移転・復元された。群馬県の重要文化財に指定されている。

土塁

三の丸を囲む堀と土塁がわずかに昔の面影をとどめている。本丸や二の丸の堀は明治維新後に埋め立てられた。高崎市の指定史跡。

直政公ゆかりの古刹（こさつ）

龍門寺（りゅうもんじ）

所在地：高崎市箕郷町東明屋

直政公は井伊家の繁栄と仏法興隆を祈願して、城の北東にあたる鬼門の位置に寺院の建立を計画し、翌年四月、曹洞宗榛名山祥寿院龍門寺を開基した。山門は大名屋敷の門にも見える剛健さで、高崎市重要文化財に指定されている。屋根には井伊家の家紋「橘」が刻まれており、門の裏には井伊家の先陣の旗印「井桁」の紋がある。

龍門寺の山門

曹洞宗の関東三名刹といわれた下野の大中寺（栃木市）から八世白庵秀関（はくあんしゅうかん）師を招いて天正十九年（一五九一）に開山された。

龍門寺墓所にある松下三代の墓

左が直政の義父の松下源太郎清景の墓。中央は松下家二代目の二定（かずさだ）の墓。二定は直政が徳川家康の勧めで松下虎松から井伊万千代となり松下家を離れたため、後継者の養子として松下家に入った。右は二定の嫡子・高冬の墓。高冬は父の二定より早く亡くなった。

龍門寺の庭園

龍廣寺（りゅうこうじ）

所在地：高崎市若松町

慶長三年（一五九八）、直政公は箕輪の龍門寺にいた白庵和尚を高崎に迎え、龍廣寺を創建した。同寺の境内には直政公の供養塔がある。直政公は和田の地名を変更しようと白庵和尚に相談したところ、和尚は「成功高大」の意を持つ「高崎」が良いのでは、と進言し、高崎の地名が誕生したという。

龍廣寺の山門

山門の額には山号「高崎山」と記されている。地名を選ぶときに、「松ヶ崎」「鷹ヶ崎」という案があったという。白庵和尚の「生物には栄枯盛衰があるので、高崎が良いのでは」との進言を受け、直政公が高崎に改めたという逸話が残る。

直政公の供養塔

直政、直孝は家康の天下統一に大きく貢献

関ヶ原の戦い後の論功行賞で、井伊直政は十八万石に加増され、佐和山城主となる。佐和山城は徳川方（東軍）が支配する地域の西端に位置し、合戦後、直政は豊臣系の大名との交渉役を担っていた。

直政は、佐和山城が敵将の石田三成の居城であったことから、新たな城を築くことを計画する。近世的な城下町を形成できる地理的に条件の良い場所への移築を検討していたが、慶長七年（一六〇二）二月、合戦で受けた鉄砲傷が悪化し、佐和山城で死去する。翌年の慶長八年、家康は彦根山に築城することを決する。この頃、大坂では豊臣秀頼が影響力を保っていたため、家康は大坂に睨みを利かせるための城として、彦根城の築城を急いだ。

直政には正室の子である直継と側室の子である直孝がいた。直政の死去時、ともに十三歳で、直継が家督を継承したが、直継は病身であったためか家内をまとめきれず、家康は直孝を直政の後継者に指名した。直継は直政の領地のうち三万石を上野の国安中に分地され、安中藩主となる。直孝は慶長十九年（一六一三）の大坂冬の陣で見事な采配をふるい、家康の期待に応えた。

直政、直孝と二代にわたり徳川家の重臣として活躍し、徳川幕府の全国支配体制確立に重要な役割を果たしたのである。

彦根城と周辺の見どころスポット
井伊直政ゆかりの地

国宝 彦根城（滋賀県彦根市）

彦根城築城は、徳川家康の命により佐和山城を一掃するため、慶長九年（一六〇四）より着工された。当初は湖畔の磯山を予定していたといわれているが、直継の代になって現在の彦根山に決定し、二十年の歳月をかけて築城された。天守は大津城から、天秤櫓は長浜城から移築。天守は二年足らずで完成したが、表御殿の造営、城郭改造など、全容の完成は元和八年（一六二二）年とされている。この間、井伊直孝は大坂冬の陣で兄直継に代わって出陣し、その功績によって家督を継ぎ、夏の陣では豊臣方の木村長門守重成と戦い大功をあげ、井伊直政に劣らぬ武将と賞賛された。直孝は、秀忠、家光、家綱の三代にわたって、将軍の執政となり、幕府政治確立にも貢献。これらの功により三回加増され、三十万石の大名となった。

彦根城 天守閣

玄宮園
四代藩主直興（なおおき）が造営した庭園

天秤櫓
上から見ると、橋を中心にして天秤のように左右対称の「コ」の字の形をしていることから天秤櫓と名付けられた

復元された彦根城御殿の内部

彦根城御殿の庭園

❶ 開国記念館
開国記念館の展示場入り口にある菅田将暉扮する直政の等身大看板

❷ 龍潭寺
彦根の龍潭寺は、慶長五年（一六〇〇）に井伊直政が佐和山城主となった際に、井伊家の発祥地である井伊谷の龍潭寺を分寺し、龍潭寺の五世・昊天禅師を招いて建立したもの。浜松市龍潭寺とともに、井伊家の菩提寺となっている。

❸ 清涼寺
井伊家代々の菩提寺

❹ 長松院
井伊直継が直政を茶毘に付した際、直政の戒名にちなんだ禅堂「祥壽院」を建て、その後名称を「萬年山長松院」に改めた

❺ 宗安寺
直政が箕輪城主となった時、正室東梅院の両親を弔うために復興した

❻ 瘡守稲荷神社（かさもりいなりじんじゃ）
直政が城の鎮守稲荷として祀ったと伝わる

彦根城のゆるキャラ・ひこにゃん
ひこにゃんのモデルは彦根藩二代藩主・井伊直孝ゆかりの白猫。大木の下で雨宿りする井伊直孝を手招きして寺へ招き入れ、雷から命を救ったという伝説の招き猫と井伊家由来の赤備えの兜を合体させてデザインされた。

上州とゆかりが深い直政公

箕輪城見どころガイド

箕輪城は明応五年（一四九二）頃に当地を拠点にしていた豪族・長野氏によって築城された。長野氏は、関東管領・山内上杉氏に属し、周囲の小豪族を束ねて「箕輪衆」と呼ばれる一団を組織し、存在感を保っていた。長野氏の全盛期を築いたのは長野業正（政）で、弘治三年（一五五七）から武田信玄の度重なる攻撃を受けながら持ちこたえていたが、永禄四年（一五六一）に業正（政）が病死した後、跡継ぎの業盛は武田軍の攻撃を受け、永禄九年（一五六六）に業盛は自害し、箕輪城は落城、武田氏の支配下となった。

武田氏が天正十年（一五八二）に滅亡したあと、箕輪城は織田、北条、徳川と領主が変わり、天正十八年（一五九〇）に豊臣秀吉が天下統一を成し遂げた年に、井伊直政が箕輪城主となる。

箕輪城まつり（開会式）

武者行列や鉄砲演舞、迫力ある箕輪城攻防戦の再現などイベントが盛り沢山。平成二十九年は荒天のため中止でした。

箕輪城まつり（攻防戦）

御前曲輪

御前曲輪は本丸の一部で、城の精神的な中枢部。永禄九年（一五六六）、長野業盛は武田信玄の侵攻に抗しきれず、御前曲輪の持仏堂で父業政（政）の位牌を拝み、自害した。

稲荷（松下）曲輪

井伊直政の義父、松下源太郎清景が住んでいた。松下家は稲荷信仰に篤く、浜松の頭陀寺にあった松下屋敷の稲荷宮を遷宮したと思われる。

みのわの里のきつねの嫁入り

（平成二十九年十月一日開催）

「箕輪城が廃城になり、稲荷曲輪に住み着いた狐が夜になると城下町に出没した」という言い伝えや、農家の婚礼儀式「新婦輿入れ行列」の提灯の灯りと狐火が平行して見えたという伝説から、きつねの嫁入り行列として再現している。今年で十六回目。

NHK公開セミナー

大河ドラマ「おんな城主 直虎」

箕郷文化会館で10月21日に開催

大河ドラマ「おんな城主直虎」の時代考証を担当する小和田哲男静岡大学名誉教授を講師に招き、NHK公開セミナー「おんな城主直虎」が平成29年10月21日（土）に箕郷文化会館（高崎市箕郷町）で行われました。講演では、直虎が虎松を養育して徳川家康に出仕させる際のいきさつや、家康に仕えた虎松が井伊直政として徳川家重臣になっていく過程についての話がありました。

箕輪城と井伊直政公を研究する箕輪城まつり奉賛会会長・エスピック株式会社代表取締役社長　柳澤佳雄氏（左）、箕輪城井伊直政公研究会会長の西原巌氏（中央）、地域史研究家　生方伸明氏（右）
本稿の作成にあたり、三氏にご協力をいただきました。

箕輪城を見学する小和田哲男氏

井伊直政公の甲冑（レプリカ）
エスピック株式会社 創新館所蔵

年代	箕輪城城主	主な出来事
1454年（享徳3）～1482年（文明14）		享徳の乱で関東地方が戦国時代へ。
1500年頃		この頃、箕輪城築城。
1524年（大永4）		箕輪の長野方業が総社城主長尾顕景を攻める。
1552年（天文21）	長野（長野業正（政）など）	関東管領上杉憲政、北条氏に攻められ、平井城（藤岡市）を追われる。
1560年（永禄3）		桶狭間の戦い（織田信長、今川義元を破る。）
1561年（永禄4）		この頃から、武田信玄が西上野に出兵する。
1566年（永禄9）		武田信玄、箕輪城を落とす。
1573年（天正元）		室町幕府滅亡（信長、足利義昭を追放する。）
1575年（天正3）	武田（内藤昌秀（豊）など）	長篠の戦い（信長・徳川家康が、武田勝頼を破る。）
1582年（天正10）	織田（滝川一益）	信長重臣の滝川一益が箕輪に入城するが、間もなく北条氏邦が城主に。
1585年（天正13）	北条（北条氏邦など）	信長、武田氏を滅ぼす。本能寺の変（信長死す。）
1590年（天正18）	徳川（井伊直政）	豊臣秀吉、四国平定。秀吉、関白に。
1598年（慶長3）		家康家臣中最高石高の12万石で、井伊直政が箕輪城主に。
		秀吉、北条氏を滅ぼし、天下統一。
		直政、城を高崎に移し、箕輪城は廃城に。秀吉死去。

特集 2018年 NHK大河ドラマ

西郷どん（せごどん）

西郷隆盛と幕末・明治維新

明治維新に大きな役割を果たした人物として、西郷隆盛は根強い人気を持っている。平成30年のＮＨＫ大河ドラマ「西郷（せご）どん」では、三回の結婚、三回の島流し、郷里の盟友・大久保利通との決裂など、西郷隆盛の波乱に満ちた生涯が描かれる。

西郷隆盛の生い立ち

十八世紀後半から十九世紀の前半まで、江戸幕府は外国からの開国圧力と、国内の幕藩体制に不満を持つ勢力の台頭により、統治能力が損なわれていた。西郷隆盛は、こうした不安定な時代の文政十年（一八二七）に誕生した。西郷家は薩摩藩の下級武士で、暮らしぶりは質素ながら、明るい家庭であった。薩摩藩には「郷中（ごじゅう）」と呼ばれる、地区ごとに武家の子弟が集まり、先輩が後輩を指導する独特の教育制度があり、日常のしつけや武芸の鍛錬をしていた。薩摩の偉人を輩出した隆盛の住む加治屋町でも郷中教育は浸透しており、西郷はこの郷中で大久保利通に出会う。

西郷隆盛

西郷は天保五年（一八三四）頃から藩校の造士館で学問を学び、十八歳の天保十五年（一八四四）に藩の下級役人「郡方書役助（こおりかたかきやくたすけ）」となり、農政に携わる。西郷は幼少期に右腕を負傷し、腕の曲げ伸ばしが不自由になったため、武芸の修得はあきらめて学問に打ち込んだため、事務職に就いたといわれている。郡方勤務時代、西郷は重税に喘ぐ農民の窮状を看過できず、自らの手当てをめぐむこともあったという。西郷の愛情深い性格は、郡方勤務時代に培われたものとも考えられ、後年になって西郷が到達する「敬天愛人（けいてんあいじん）」の思想は、郡方での経験がその源流にあるともいえる。

お由羅騒動 薩摩藩揺るがす家督争い

西郷が郡方に籍を置いてから五年後の嘉永二年（一八四九）、薩摩藩を揺るがす大きな事件が起こった。それは「お由羅騒動」と呼ばれるお家騒動で、当時の藩主・島津斉興の正室の子・斉彬と、側室・由羅の子・久光による家督争いだった。斉興は斉彬を疎んじており、家督を譲らないでいたため、斉彬を藩主に擁立しようとする一派は、由羅と反斉彬派の重臣を排除しようと動いた。この動きに対し、久光派は斉興に訴え、斉興は斉彬派の重臣に切腹や遠島の重い処罰を下した。処分者の中に、隆盛が兄のように慕っていた赤山靭負（あかやまゆきいえ）がおり、赤山は切腹。また、大久保利通の父・大久保利世は遠島処分となり、西郷は大きな衝撃を受けるのだった。

お由羅騒動の後、斉彬は藩主になることを諦めずに、現藩主・斉興の密貿易を幕府に告発し、斉興は隠居を余儀なくされ、斉彬は嘉永四年に宿願の薩摩藩第十一代藩主となった。嘉永六年（一八五三）、アメリカのペリーが浦賀に来航した年に、西郷は斉彬に抜擢され江戸に随行した。庭方役という斉彬の秘書的な役割を担った西郷は、天下の情勢を藩主に知らせるため、各藩との連絡役になる。国内は開国派と外国を討つ攘夷派に二分されており、斉彬は開国派で、将軍継嗣では一橋慶喜を推す一橋派だった。西郷は斉彬の片腕となり、水戸、福井など各地の一橋派と連絡を取り合い、幕政改革の主導権を取ろうと奔走していた。しかし、安政五年（一八五八）に斉彬が急死し、鹿児島に帰国することとなった。

徳川幕府の大老・井伊直弼は、一橋派の政敵・南紀派で、安政の大獄と呼ばれる、一橋派の弾圧を始めた。西郷とともに一橋慶喜を将軍に擁立しようと動いていた橋本佐内は捕らえられて処刑され、さらに朝廷工作をともに行っていた僧の月照も弾圧の対象となったため、西郷は月照を薩摩に連れて行き、匿うことにした。しかし、藩は幕府の目を恐れて月照を薩摩に入れなかったため、西郷は月照と海中に身を投じ、入水自殺を図った。月照は死亡したが、西郷は助けられ、一命をとりとめたのである。

島津斉彬

西郷南洲顕彰館の隣にある「西南の役 官軍薩軍恩讐を超えて」の碑
平成29年9月に建立

西郷南洲記念館に隣接する南洲墓地と桜島

西郷南洲記念館（鹿児島市）

島津斉彬の銅像（照国神社・鹿児島市）

西郷どん人物相関図

西郷家

母 西郷満佐子
松坂慶子
貧乏でも明るく
愛情あふれる

妹 西郷琴
桜庭ななみ
西郷家の長女、吉之助の妹。兄を支える

弟 西郷吉二郎
渡部豪太
西郷家の次男
優しく実直な性格

下男 熊吉
塚地武雅
西郷家に代々仕える

父 西郷吉兵衛
風間杜夫
優しく人間味が
あるが、頼りない

弟 西郷従道
錦戸亮
西郷家の三男
西南戦争では兄と対立

妻 岩山糸
黒木華
武家の娘で好奇心
旺盛なおてんば

妻 愛加那
二階堂ふみ
奄美大島で西郷と
結ばれる

仕える

赤山靭負（あかやまゆきえ）
沢村一樹
薩摩藩の重臣

相談相手

西郷吉之助／隆盛
鈴木亮平
薩摩の貧しい下級武士の長男

西郷を慕う

ふき
高梨臨
貧しい農民の娘

ライバル

大久保家

大久保次右衛門（おおくぼじえもん）
平田満
西郷家とは
古い付き合い

大久保一蔵／利通
瑛太
西郷の幼なじみでライバル

次期藩主にしようと尽力

見い出す

郷中（ごじゅう）の仲間

後の精忠組

大山格之助／綱良
北村有起哉
情けが深く
豪快な親分肌

村田新八
堀井新太
西郷を慕う弟分

海江田信義／有村俊斎
高橋光臣
出世する西郷に
嫉妬する

密に連絡を取る

島津家

島津斉興（しまづなりおき）
鹿賀丈史
嫡男・斉彬を疎み、
久光に肩を持つ

嫡男

島津斉彬（しまづなりあきら）
渡辺謙
西郷隆盛を見出す
カリスマ藩主

喜久
戸田菜穂
斉彬の側室

山田為久
徳井優
斉彬の側近で、西郷
にも翻弄させられる

仕える

憧れ

斉興の側室 由羅
小柳ルミ子
江戸の町人だったが、
久光を生み権力を持つ

島津久光
青木崇高
斉彬に心酔する
西郷を敵視

養女

於一／篤姫
北川景子
西郷との間に
恋心が芽生える

仕える

幾島
南野陽子
於一の女中頭
幕府の情報を薩摩に伝える

西郷隆盛と関連事項の略年表

文政10年（1827）	1才	鹿児島で誕生
天保10年（1839）	13才	ケンカの仲裁で怪我を負って刀を握れなくなり、勉学に励む
		蛮社の獄で高野長英や渡辺華山などが捕えられる
天保11年（1840）	14才	アヘン戦争始まる（2年後に終わる）
天保12年（1841）	15才	天保の改革（水野忠邦）
弘化１年（1844）	18才	郡方書役助（こおりかたかきやくたすけ）に任命される
嘉永３年（1850）	24才	農政に関する建白書を提出
		お由羅騒動勃発・赤山靭負の切腹で号泣する
嘉永４年（1851）	25才	ジョン万次郎が帰国
嘉永５年（1852）	27才	家督を継ぐ
		ペリー来航（翌1854年に日米和親条約）
安政１年（1854）	28才	島津斉彬のお庭方となり江戸へ・政界工作に携わる
		藤田東湖と出会う
安政２年（1855）	29才	橋本左内と出会う
安政４年（1857）	31才	篤姫と徳川家定が婚姻
安政５年（1858）	32才	日米修好通商条約に調印
		島津斉彬が急死
		安政の大獄で追われ、月照と共に入水・奄美大島で蟄居
安政６年（1859）	33才	吉田松陰が死刑
万延１年（1860）	34才	桜田門外の変
		和宮親子内親王が徳川家茂へ降嫁
文久２年（1862）	36才	奄美大島から帰還
		寺田屋事件で薩摩の攘夷派が島津久光に粛清される
		島津久光の怒り描い、今度は徳之島&沖永良部島へ
		生麦事件
		高杉晋作らの英国公使館焼き討ち事件
文久３年（1863）	37才	新撰組の前進・壬生浪士が結成される
		長州藩が下関戦争（英・仏・蘭・米）
		薩摩藩が薩英戦争
		8月18日の政変で長州藩を京都から追放
元治１年（1864）	38才	再び赦されて、京都における薩摩藩代表者となる
		池田屋事件（長州藩の攘夷派が新撰組に討たれる）
		禁門の変で薩摩と会津が長州を京都から追放
		佐久間象山が暗殺される
		第一次長州征伐で長州は恭順
慶応２年（1866）	40才	西郷隆盛と木戸孝允、薩長同盟を結ぶ
		徳川慶喜が将軍になる
慶応３年（1867）	41才	明治天皇が即位
		徳川昭武がパリ万博へ
		高杉晋作が結核で死亡
		徳川慶喜が大政奉還に応じる
		坂本竜馬と中岡慎太郎が暗殺される（近江屋事件）
		庄内藩が江戸薩摩藩邸を焼き討ち
明治１年（1868）	42才	鳥羽伏見の戦いをもって戊辰戦争が始まる
		江戸城無血開城を主導
		会津戦争・北越戦争・上野戦争・箱館戦争
明治２年（1869）	43才	版籍奉還
明治４年（1871）	45才	廃藩置県
		岩倉使節団が欧米へ・西郷らが留守を預かる
明治６年（1873）	47才	征韓論を機に下野し、鹿児島へ
明治７年（1874）	48才	鹿児島に私学校を設立
		佐賀の乱で工藤新平が死亡
明治９年（1876）	50才	秩禄処分で士族の家禄等が剥奪される
		廃刀令により士族は帯刀の特権も奪われる
		神風連の乱・秋月の乱・萩の乱
明治10年（1877）	51才	西南戦争

鹿児島市の西郷隆盛銅像。わが国初の陸軍大将の制服姿。城山を背景に桜島を見据えている。昭和十二年（一九三七）五月完成。高さ約八メートル。

お客様紹介

道の駅木更津 うまくたの里 様

千葉県
木更津市

木更津市初の道の駅がグランドオープン

上空から見たうまくたの里

テープカット

道の駅木更津 うまくたの里が平成29年10月20日グランドオープンしました。

本施設は圏央道木更津東IC出口直近に位置し、国道410号の道路利用者の休憩機能を果たすと同時に、農業振興や観光振興など、地域の活性化に貢献する新たな広域交流拠点としての役割が期待されています。

太陽光発電装置や自家発電装置を備え、防災拠点の機能を併せ持っています。

地域振興施設の中核である農林水産物・加工品等物販施設においては、市内で生産された農林水産物の販売など、市内生産者の安定的な出荷先として、また、6次産業化を推進する拠点として、農業振興に寄与します。

建設プロダクトのヤマトは、本施設の建設にあたり、企画・提案・設計・施工を担当し、今後は施設維持管理に携わっていきます。

木更津市長　渡辺芳邦　様

木更津市初となる道の駅「木更津 うまくたの里」が、平成29年10月20日(金)にグランドオープンいたしました。

この道の駅は、首都圏中央連絡自動車道木更津東インターチェンジ出口に近接し、房総の玄関口である東京湾アクアラインから一番近い道の駅として誕生しました。

市制75周年という節目の年に、晴れて開業の日を迎えることができましたのも、設計・施工を担当した㈱ヤマト様をはじめ、共同企業体各位のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

市といたしましては、多くの夢と期待を背負って歩みはじめたこの道の駅を、地域振興の拠点施設として積極的に活用し、新たな賑わいの創出や地産地消の推進、観光・交流人口の増加といった目に見える効果につなげていくとともに、長年にわたって、市民の皆様をはじめ、多くの方に愛される、親しまれる施設となるよう、多様な主体と連携し、英知を結集して取り組んでまいります。

木更津市情報発信・観光案内センター

外観

地元農水産物も多数取り扱っている

道の駅 木更津 うまくたの里

住　所

〒292-0205
千葉県木更津市下郡1369番1
TEL　0438-53-7155
FAX　0438-53-7038

◎ 店舗営業時間
9:00～17:00
トイレ・駐車場は24時間使用可

施設概要

敷地面積	9,488㎡
構造規模	地域振興施設棟 木造1階　764.35㎡ トイレ棟　鉄骨造　103.86㎡ 下屋　422.93㎡
駐車場	大型車10台、普通車87台 身障者用2台